

バーナード・リーチ氏の 展覧會を観る

一 記者

英國人バーナード・リーチ氏が、上野櫻木町の新居に於て、十月一日から十日間、エッチング及びドローイングの展覧會を開くと云ふことが、通信に見えた。早速駆け付けやうと思つたが、生憎多忙なものと、櫻木町は我寓居に近いけれども、其範圍は甚だ廣く、所謂燈臺下と暗らして、其地理は一向不紊内なのに、番地さへも明かでないのだから、探して廻る暇が惜しい。そこで、先づ家妻に命じて、夕刻の散歩の際に地理を偵察せしめることとした。やがて彼女は吉報を齎らして歸つた。其情報に依れば、寛永寺塔中の寺院が近頃多く取拂はれて、今は一面に地割が出来て、頻りに住宅が新築せられつゝある、其新築の一つで、某氏々々の宅の附近にある。純然たる日本風の一構ださうである。日没後のことなので、彼女はそこそこやと探り廻つた末、とある新築の格子戸の外に立つて、折ふし微かに漏れ来る話聲を便りに、尋ぬる其家の所在を問ふた、「それは此家です」と答へて、ランプを持つて現はれたのが、意外にも洋畫家長原孝太郎君であつて、續いて出で來れる身長高き西洋人に向つて、予が氏の展覧會參觀を希望しつゝある旨を、家妻の言に依つて通話せられて、明日午前は在寓故來觀せよとの答を傳へられた。年若き西洋人にして、一樂の和服に白き縮緬の兵兒帯を巻き居たりと云ふ。本年二月來朝せりと通信に見ゆる外人にして、上野の山の奥、彼の寂寥の地に日本風の家屋を建て、日本服を身に纏ふとは、さすが美術家氣質ぢやわいと、予は獨語した。

翌朝彼女の告げ示せる路を辿つて、天王寺墓地の南方の境界に近き一の小路を突き進んで、某氏某氏の家の前を通つて、新築の貸屋の櫛比するところを過ぎて行くと、右側に三尺幅の路次口



スチユディオに於けるリーチ氏

に、白木の門柱の上部に、麻布を横たへて、"The Exhibition of Etching & Drawing. By Bernard Leach." 云々と墨にて書き付けてあるのを見付けた。路次に接した新築で、櫛子窓のある、入口は格子戸の一構が、氏の假寓らしい、路次に沿へる臺所には下婢が立働らいて居た。路次の奥に入る

と二間四方位な仕事場、今は即ち展覧會場があつた。北向の家で、通則に従つて、北方の屋根を硝子張りにして光線を探るとにしてある。案内を求め様として、開け放たれた戸口に立つと、折節一人の日本紳士と對話中なりし、浅い紺色の脊廣を着けた主人公は立つて予を迎へて、慇懃に招せられた。

歳は三十前後と見ゆる品格ある好紳士である。先客の談話中に、予は室内を一巡した。四方壁にして、東と西と相對して、一尺位の細窓が壁の中段の處に横に切られて、磨硝子の戸が締められて、草色の木綿の布片で、光線が遮つてあつた。北の屋根の硝子張の處にも、同じ木綿の布片で、一部分光線を加減してある。四方の壁には自作のエッチング、素描畫などが、蠟色塗の細縁の硝子張の額面に入れて、白い細い木綿の組紐で吊るしてある。其白い並行せる垂直の二條の紐と、黒い細い額縁と相對照して一種の異觀である、併しそれは決して不快の感を起こさぬ。其趣味は寧ろ日本的で濫いエッチングの畫面との調和も佳い、梁もあらわに質素なる日本風の仕事場には適當して居る。さすがは調和を生命とする美術家の考案であると言首肯せらるゝ。壁の色は鼠がよつた、薄い、併し微かに暖か味を含んだものである。

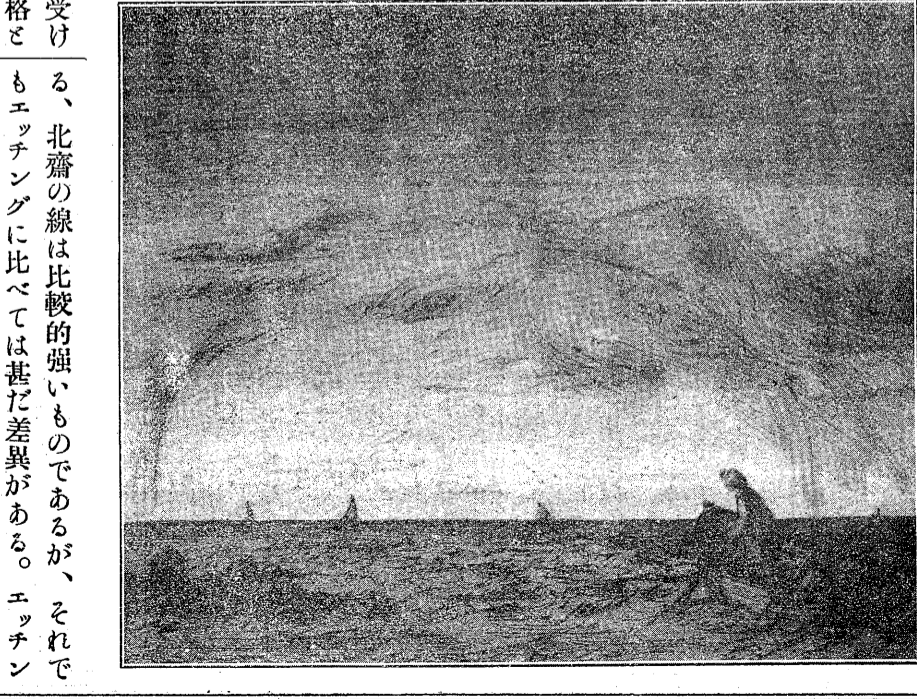
室の中央に凡三尺四方、深さ凡二尺餘位の頑丈な木の箱が二個置かれて、テーブルに代用せられて、其上には鐵瓶を懸けたる火鉢、煙草盆、インキ壺、銅版、書冊、其他が雜載せられて居る。客と主人とは凡二尺四方深さ凡一尺餘と覺ゆる箱の上に黒天鵝絨の坐蒲團を敷いたのに腰打掛けて居る。此等の箱は、歸國の際に其作品や機械を運び去るべき用意にもやと察せられる。

室の東南隅に印刷機が一臺据ゑられて、彫蝕せる銅版の兩三面が其の上に置かれてある、他の一隅には臺の上に藥液入の瓶、鍍入の印刷肉、鐵盤、銅版其他の用具が整然と置かれて居る。是は今説明の便に供する爲に配列せられてあるのであらう。

額はエッチング、素描畫とも約四五十點もあらうか、英國にての作品の方が多様に見受けられた。額面下方の一角に紙片を挿んで書題と價格とを英文で書き付けてある。拾圓乃至七拾圓位迄あつた様に記憶する。日本人にしてエッチングの一面に七拾圓ををろか、せめて拾圓でも奮發する様になれば、我美術界も大分面白くなるであらう。書題は人物もあり、建築もあり、都邑の景色も、海の景色もあるが、最も多いのは郊外の風景で、又

た雨とか風とか云ふ特徴ある景を選んだのが多い様だ。そして其單色なる線畫を以て能く特徴の感じを畫面に漲らして居るのは敬服だ。

エッチングに就ては予は嘗て二三の友人が試みたものを見、又複製されたものは屢々外國美術雜誌で見受けるが、外國人の原作は此度初めて接したのである。濫いものである、雅致のあるものである。或は日本木版とエッチングとを其趣味に於て相等しきものと云ふものがあるが、其線に於ける強い深い氣持は中々日本木版では現はれない、木版の特色は矢張り輕妙な處にある様だ。エッチングの重い強い深い味は自ら是れ別調であ



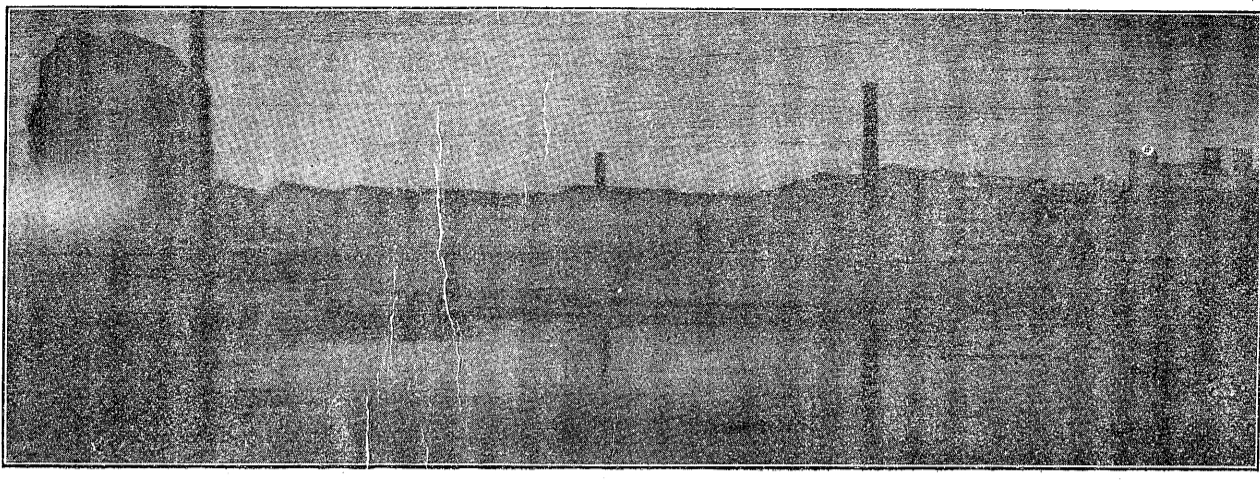
『鯖 魚』バーナード・リーチ作 (ドライポイント)

る、北齋の線は比較的強いものであるが、それでもエッチングに比べては甚だ差異がある。エッチングと日本木版とは其趣味は甚だ相似たるが如くであつて、實は頗る相異つたものである。

併し又思ふに、嘗てアルフレッド・イーストが、畫家が自然より直接に蝕蝕版を製することに就て論じたとき、其結論が斯うであつた。

『極簡の手法もて極大の成果を得ること、是實

に書家にして蝕鏤家たるものゝ要訣なり。蓋し此手段の極簡を得んとするには、周到なる考慮を缺くべからず、而して畫面に於て實際何の役にも立たざる線が、甚だ妨礙となるものなること、常に念頭に留めざるべからず」と。



(ゲンチツェ) 作チー・ドーナーバ 『夜のスムーテ』

今まリーチ氏の作品を見るに、能く一種の自然の感じと情致とを表現して居ることを覺えた。其感じには、しんみりと他の胸に沁み込む深さがある、輕佻でない、浮薄でない、まゝ沈痛といつた様な

快よさを覺えた。由來『線畫は最も作家の練達如何に依て成敗の分るゝもので、趣味の多少も亦之に依つて分れるのである。それは線畫の妙味は常に物象の形狀を現はすのみでなく、又更らに其色彩と活動とを暗示するところにある。實際に近き色彩を用ゐずして、單に作家の練達を以てそれを暗示しなくてはならぬから、そこに作者の性情と技巧との上に於ける特色が現はれる』と、嘗てアルフレッド・イーストの曰つたのを讀み、且其エッチングの複製を見て、其強い線と強い濃淡とを以て現はした、自然の感情を深く自分の胸に刻み込まれる様に覺えた予は、今あれ程強烈ではないが、併し靜かに深く予の胸に沁み込む一種の感じを覺えたのである。

やがて客は辭し去つた。リーチ氏は慇懃にして親しみ易き態度を以て予に對してエッチングを知れるかを問ひ、其方法を説明し、特に畫に就いてエッチングとドライポイントとの區別などを熱心に説明した。さて何れの圖を好むかを問ひ、予の撰びたる「テムス河畔の夜」「梅雨の三河島」など三四點を見て、日本人は多くそれ等とこれこれ好むとて指せるは、鉛筆畫に淡彩を施せる心地良き、まことに我々日本人の趣味に適すべき風景畫であつた。さて氏の自ら得意とするところと云ふはゴシック風の寺院の、左右の空中に翼ある人が對稱的に飛翔せる圖であつたが、其趣味は予には解し得ないところである。

それから座に就いて、氏が下婢に命じたる茶を啜りつゝ、予は日本畫に對する氏の感想を尋ねた。氏は明晰なる英語もて語つた、其の大意を茲に摘めば
『抑も國民の歴史は、之を譬ふれば樹の幹である、各時代に於ける國民の生活は其枝である、そして藝術は年毎に咲き出づる花である。されば國民の文明の程度、生活の狀態に依つて藝術の花に自ら變化を來すことを免れぬ。今ま日本國民現下の生活を見るに泰西文物の輸入に是れ急にして、

『梅雨の三河島』 リーチ作 (エッチング)



未だ之を國民化するの違なく、國民の生活は極めて混亂紛雜の狀態にある。此紛亂混亂にして鎮靜せざれば純然たる日本の藝術は起らぬ。
『日本の美術は尙ほ今より四百年以前、即ち伊太利の復興期以前の狀態に近いものがないでもない。幼稚である、科學的智識が足らぬ。そして今一種の危機に迫られて居る。國民性を滅却しては日本の藝術は起らぬ。併し予は此國民の生活の狀態の動搖が鎮靜に歸する曉が必ず來て、日本の藝術が復興するであらうと信ずる。』

『日本人の性格は純潔、古樸である。ラフカディオ・ハーンの言つた様に日本人は恰も羅馬の文明に接する以前の羅馬人の如きプリミチブなる民族である。是れ其長所にして又短所である。神道は日本的である、素樸純潔を尙ぶ、けれども深く、強く、豊かな所がない。發句、根付、色刷木版畫などは日本の趣味を顯はす、簡單、淡泊、可憐であるが、偉大、崇高の點がない。』
『予は多く支那に注意しつゝある。其國民性に

豊富な強勁な偉大な、深淵な處がある、印度から傳つた佛教は誠に深淵なものである、日本の神道には此深淵がない、支那を経て日本に來つた佛教には其深さが大に減却した。』
凡そ『素描は繪畫の基礎である、然るに日本人の繪畫には素描の素養が缺乏して居る。素描を充分に學ばずして早く色彩を塗ることを事とするが故に、甚だ不確な繪になる。』
以上は實に首肯せざるを得ざる意見で、しかも大膽に日本藝術の弱點を日本人たる予に向つて指摘するところ、以て氏の親切を感謝せねばならぬ。

かくて予は多大の快感と、一種の感慨とを抱いて、此慇懃にして快活なる主人と、其素樸にして而かも趣味に富みたる展覽會場とに別を告げて門前に出づれば、谷中の森の彼方の空は、雨を催うす秋の寂しさを見せて、エッチングの好題目を提示して居た。

謹告

我美術新報は發行以來既に星霜を経たること八、聊か美術界の爲に貢獻致來り候處、今同時勢の進運に伴はんが爲、更に大發展を試み、益々奮勵努力して斯界の活耳目たらんことを期し、左の改革を實行致候
一編輯の方針を大に活動的たらしむる事
一犀水坂井義三郎氏を聘して編輯部の主幹とし、別に諸大家の贊助を仰ぐことと致し、既に快諾せられたる向も不尠候事
一誌面を擴張し、頁數を十六頁とし、每號原色版刷傑作一圖を添ゆる事
一毎月一日一回發行とする事
一定價一部金貳拾錢郵稅壹錢に改むる事
尙本號第八面社告御參照相成度候也